

6つの係数 判断シート

係数名を丸暗記する前に、問題文と数値の大きさを判断するための無料PDF

このシートの目的

FP試験の6つの係数は、名前を丸暗記しようとするのが混乱しやすい分野です。このシートでは、最初から係数名だけを思い出そうとせず、「問題文の見るポイント」と「係数表の数値の大きさ」から判断する流れを整理します。

使い方 3ステップ

Step	やること	見るポイント
1	問題文の見るポイントを確認する	「今のお金か」「将来の金額か」「毎年の金額か」を見ます。
2	係数表の数値を基準と比べる	1、 $1 \times$ 年数、 $1 \div$ 年数を基準にして、使う数値を絞ります。
3	計算結果と係数名を確認する	利息が付くと自然な結果になる方を選びます。係数名を問われる問題では、最後に早見表で確認します。

10年の問題なら、基準はこう考えます

$$1 \times \text{年数} = 10 / 1 \div \text{年数} = 0.1$$

係数表の中で「10に近い数値」を見るのか、「0.1に近い数値」を見るのかを先に考えると、使う係数を絞りやすくなります。

大切な考え方

計算問題では、最初から係数名を思い出そうとしなくても大丈夫です。まずは問題文に合う「数値の大きさ」を見つけて、計算結果が自然かどうかで判断します。

ただし、係数名そのものを問われる問題では、最後に早見表で係数名も確認しましょう。

この資料は、ブログ記事「6つの係数」を補足する学習用シートです。試験直前の見直しや、過去問演習の横に置いて使うことを想定しています。

1. 6つの係数名と「数値の見え方」

ここでは全体像をつかむために係数名を記載します。まずは数値の大きさを判断し、必要に応じて係数名を確認します。

係数名（確認用）	問題の形	係数表での見え方	考え方
終価係数	今あるお金を複利運用して、将来いくらになるか	1より少し大きい	元金に利息分だけ上乗せ
現価係数	将来の目標額に対して、今いくら必要か	1より少し小さい	利息が付くので、今必要な金額は少なくてよい
年金終価係数	毎年積み立てて、将来いくらになるか	1×年数より大きい	利息が付くので、積立額×年数より多くなる
年金現価係数	毎年受け取るために、今いくら必要か	1×年数より小さい	利息が付くので、受取額×年数より少なくてよい
減債基金係数	目標額のために、毎年いくら積み立てるか	1÷年数より小さい	利息が付くので、目標額÷年数より少なくてよい
資本回収係数	元金を取り崩す、またはローン返済で毎年いくらか	1÷年数より大きい	利息が付くので、元金÷年数より多くなる

係数名を使わない4分類

係数表で見る場所	このとき使う	見分け方
1より少し大きい	今あるお金を運用して将来額を求める	一括で運用する。利息分だけ増える。
1より少し小さい	将来の目標額から現在必要額を求める	一括で準備する。利息分だけ少なくてよい。
1×年数より大きい/小さい2つ	毎年の金額から、まとまった金額を求める	1×年数より大きいか小さいかで判断する。
1÷年数より大きい/小さい2つ	まとまった金額から、毎年の金額を求める	1÷年数より大きいか小さいかで判断する。

2. 係数名を使わない見分け方

問題文を読んだら、係数名を思い出そうとせず、見るポイントのどれに当てはまるか確認します。

見るポイント	選ぶ係数の大きさ
「今あるお金を運用して将来いくら？」	1より少し大きい数値
「将来の目標額のために、今いくら必要？」	1より少し小さい数値
「毎年積み立てて、将来いくら？」	1×年数より大きい数値
「毎年受け取るために、今いくら必要？」	1×年数より小さい数値
「目標額のために、毎年いくら積み立てる？」	1÷年数より小さい数値
「元金を取り崩す」「ローンを返済する」ので毎年いくら？	1÷年数より大きい数値

ポイント：1×年数と1÷年数を基準にする

毎年の金額から、まとまった金額を求める問題では、係数が1×年数の近くにありま。1×年数より大きいか小さいかで判断します。

まとまった金額から、毎年の金額を求める問題では、係数が1÷年数の近くにありま。1÷年数より大きいか小さいかで判断します。

年数	基準になる数	見る係数の例
5年	1×年数 = 5 1÷年数 = 0.2	5に近い2つ、または0.2に近い2つを見る
10年	1×年数 = 10 1÷年数 = 0.1	10に近い2つ、または0.1に近い2つを見る
25年	1×年数 = 25 1÷年数 = 0.04	25に近い2つ、または0.04に近い2つを見る

3. 判断に迷ったら計算結果で確認する

見るポイントだけで迷う場合は、候補を両方計算して、利息が付くと自然な結果になる方を選びます。

迷いやすい形	単純計算の基準	利息が付くと自然な結果	判断する数値
毎年積み立てて、将来いくら？	毎年の積立額 × 年数	単純合計より多くなる	$1 \times \text{年数}$ より大きい
毎年受け取るために、今いくら必要？	毎年の受取額 × 年数	単純合計より少なくてよい	$1 \times \text{年数}$ より小さい
目標額のために、毎年いくら積み立てる？	目標額 ÷ 年数	単純割りより少なくてよい	$1 \div \text{年数}$ より小さい
元金を取り崩す / ローンを返済するので毎年いくら？	元金 ÷ 年数	取り崩し：運用しながら取り崩すので、元金 ÷ 年数より多く受け取れる。 ローン返済：利息分があるため、元金 ÷ 年数より多く支払う。	$1 \div \text{年数}$ より大きい

同じ「受け取る」でも、聞かれているものが違います

「毎年受け取るために、今いくら必要？」と聞かれたら、最初に必要なまとまったお金を求めます。

「元金を取り崩す場合、毎年いくら受け取れる？」と聞かれたら、毎年の金額を求めます。

同じ「受け取る」という言葉が出て、最後に何を聞かれているかを確認しましょう。

問題の見方	基準	選ぶ結果
10年後に100万円を準備するため、毎年いくら積み立てる？	$100\text{万円} \div 10\text{年} = 10\text{万円}$	利息が付くので、毎年10万円より少ない結果が自然
100万円を10年で取り崩す場合、毎年いくら受け取れる？	$100\text{万円} \div 10\text{年} = 10\text{万円}$	運用しながら取り崩すので、毎年10万円より多い結果が自然
10万円を毎年積み立てたら、10年後いくらになる？	$10\text{万円} \times 10\text{年} = 100\text{万円}$	利息が付くので、100万円より多い結果が自然

迷ったときの合言葉

「利息が付くなら、単純計算より多いのか、少ないのか」を考えます。計算結果が不自然な方は選ばない、という確認をするとミスが減らしやすくなります。

4. 書き込み用チェックシート

過去問を解くときは、1問ごとに下の1～6の順番で確認します。係数名を思い出す前に、まず「何を求めているか」をメモします。

No.	確認する順番	チェック・メモする内容
1	問題文で何を求めているか確認する	将来いくら？ 今いくら必要？ 毎年いくら積み立てる？ 毎年いくら受け取る？ 毎年いくら返済する？
2	お金の動きを確認する	今あるお金 将来額 将来目標額 今必要額 毎年積み立てる 将来額 毎年受け取る 今必要な金額 まとまった金額 毎年の金額
3	基準になる数を選ぶ	1 $1 \times \text{年数}$ $1 \div \text{年数}$
4	利息が付くとどうなるか考える	単純計算より多くなる 単純計算より少なくなる
5	係数表から近い数値を選ぶ	基準より大きい 基準より小さい
6	計算結果を確認する	自然 もう一度、問題文と基準を見直す

チェックのコツ

この表は、複数問を記録する表ではなく、1問を解くときの確認手順です。最初から係数名を書こうとしないことがポイントです。

まず「何を求めている問題か」を確認し、次に係数表の数値が1、 $1 \times \text{年数}$ 、 $1 \div \text{年数}$ より大きいか小さいかを見ます。

5. 例題で確認する

ここでは、チェックシートの流れを使って1問だけ確認します。過去問を解くときも、同じ順番で考えると判断しやすくなります。

例題

10年後に100万円を準備するため、年利2%で毎年いくら積み立てればよいか。係数表から使う数値を選びます。

確認する順番	この例題での見方
1. 何を求めているか	10年後の目標額100万円のために、毎年いくら積み立てるかを求める。
2. お金の動き	将来目標額 毎年の積立額。まとまった目標額から、毎年の金額を求める問題。
3. 基準になる数	まとまった金額から毎年の金額を求めるので、基準は $1 \div \text{年数}$ 。10年なら $1 \div 10 = 0.1$ 。
4. 利息が付くとどうなるか	利息が付くため、単純計算の $100\text{万円} \div 10\text{年} = 10\text{万円}$ より少ない積立額でよい。
5. 係数表から選ぶ数値	$1 \div \text{年数}$ より小さい数値を見る。10年なら0.1より小さい係数を確認する。
6. 係数名(確認用)	この問題で使う係数名は、減債基金係数。

この例題のポイント

「目標額のために、毎年いくら積み立てる？」と聞かれたら、 $1 \div \text{年数}$ を基準にします。利息が付くので、毎年の積立額は「目標額 \div 年数」より少なくてもよい、と考えると判断しやすくなります。

実際の過去問で確認したい方は、ブログ記事内の「4. 過去問解説」もあわせてご確認ください。

6. 判断早見表

問題文のキーワード	係数表で見る大きさ	係数名（確認用）	迷ったときの判断
今あるお金を 年間複利運用したら、将来いくら？	1より少し大きい	終価係数	元金より少し多くなる
年後の目標額のために、今いくら必要？	1より少し小さい	現価係数	目標額より少なくてよい
毎年積み立てたら、将来いくら？	1×年数より大きい	年金終価係数	積立額×年数より多い
毎年受け取るために、今いくら必要？	1×年数より小さい	年金現価係数	受取額×年数より少ない
目標額のために、毎年いくら積み立てる？	1÷年数より小さい	減価基金係数	目標額÷年数より少ない
元金を取り崩す／ローンを返済するので毎年いくら？	1÷年数より大きい	資本回収係数	元金÷年数より多い

係数表を見るときの基本

係数表では、問題文に書かれている「利率」と「年数」を確認し、該当する行・列の数値を見ます。そのうえで、その数値が「1」「1×年数」「1÷年数」と比べて大きいのか、小さいのかを確認します。

過去問で確認したい方へ

実際の問題で確認したい方は、ブログ記事内の「4. 過去問解説」もあわせてご確認ください。
このPDFのチェックシートに沿って、問題文・基準・数値の大きさを順番に確認すると判断しやすくなります。

このシートの使い方

1. 問題文のキーワードを確認します。
2. 1、1×年数、1÷年数を基準にして数値を絞ります。
3. 迷ったら、利息が付くと自然な結果になる方を選びます。
4. 係数名を問われる場合は、最後に早見表で確認します。

発行：おさだFP事務所

このPDFは、FP試験対策用の無料資料です。6つの係数の考え方は、教育費・老後資金・住宅ローンなど、実生活のお金を考える場面にもつながります。

ブログ記事：https://asutakapd.com/six_coefficient/

ホームページ：<https://home.asutakapd.com/>

本資料は学習補助を目的とした一般的な情報です。試験の出題内容・法令・制度等は最新情報をご確認ください。